

3 鳥獣被害対策の取組み

実施隊（猟友会）の感想

メリット	デメリット	見解 (マクセルフロンティア株式会社)
見回りの省力化に繋がる	冬期間は降雪の影響による誤作動が多い	センサーを追加し、検知精度の向上を図る。
設置方法が簡単 (特殊な工具が必要ない)	子機を中継器にかえられないか	中継器への切替え機能は、故障の原因や製品コストの増加の要因になるため、機能の追加は見送る。なお、子機と同じ大きさの中継器は、販売を開始している。
大規模な工事が伴わない	地図上にNoか地名等を表示させてほしい	わなが隣接している場合、地図が見えにくくなると推測される。メールに任意のデバイス名が記載されるように改善をした。今後は、メールによって位置の特定を行っていただく。
子機が軽量	Cメールでも使えるとよい	2022年～2026年にかけて、各キャリアの3Gサービスが終了となる。代替案として、他の方法での通知を検討している。
無線の申請が不要（使用料不要）	地図上で設置・撤去日が分かるとよい	マタギっ娘サーバの「履歴一覧」から履歴を確認することができる。今後、GIS(地理情報システム)の活用も視野に、改善を進めている。

実証実験の結果

①見回りの省力化に繋がる

実証実験前（135日間）

令和2年 5月25日から

令和2年10月 6日まで

見回り138回×2名=276回

➡ 0. 48日に1回

実証実験後（77日間）

令和2年10月 7日から

令和2年12月22日まで

見回り35回×2名=70回

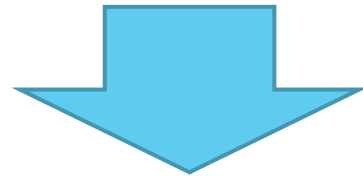
➡ 1. 10日に1回

②害獣捕獲監視システムを使う場所は、奥地や見回りが困難な場所であれば、大いに活躍できる。

③対象鳥獣によって、害獣捕獲監視システムを使い分ける（過信しない）必要がある。ツキノワグマの場合は、特に危険が伴うことから、見回りの省力化は図れない。

④電波状況が安定しない

中継器が必要であるため、設置する場所は、町有地が第1候補とされることから、町内全域を網羅することができない可能性がある。（民有地の場合は、交渉が必要であり、設置すること自体が困難な場合もある。）



わなは、警戒されないよう、藪の中に仕掛けることが多い。実証実験で、中継器を設置したが、子機が作動しない場所が多々あった。

**中継器の設置数を増やす
ことで改善される！**

3 鳥獣被害対策の取組み

地域連携

色麻小学校

- ・ 動物の名前をあてるクイズ
- ・ 有害鳥獣に遭遇したときの対処方法
- ・ 人と動物の共存



クマやイノシシの生態を学んだよ！

9月30日、色麻小学校5年生67名が、総合的な学習の時間（農業）で「有害鳥獣被害」についての知識を深めました。実際に、クマやイノシシが農作物を荒らしている映像や近隣町村に生息している動物の名前をあてるクイズ、人と動物が上手に共存していくことができるのではないかといったお話や、有害鳥獣に遭遇したときの対処方法についても学んでいました。クマやシカのはく製や頭蓋骨に興味津々な様子の子ども達でした。



▶ 町鳥獣被害対策
アドバイザーの
鈴木さんが講師



広報しかま令和元年 11月号

地域連携

加美農業高等学校

イノシシやツキノワグマによって、果樹やデントコーンの被害に悩まされており、令和2年度からデントコーンの栽培を断念した。



リンゴ被害



デントコーン被害

地域連携

協議会（町）

- ・加美農業高等学校周辺は、農作物が多くイノシシやツキノワグマの出没に大きな影響を与えている。
- ・高校生の力を借りて、地域の人手不足を解消したい。
- ・町の対策としても鍵となる存在！



加美農業高等学校

- ・農作物の被害をなくしたい。
- ・生徒の安全を確保したい。
- ・地域と連携した活動が何かできないか。
- ・学校教育にも良いのではないか。

**令和2年度から
連携した対策を始めた！**

3 鳥獣被害対策の取組み

地域連携

- ・総合学習の時間を活用し、生徒達が被害対策を学ぶ。
- ・協議会（町）や隣接する行政区と連携して、柵の設置場所を決定し、設置活動を行う。



広報しかま令和2年7月号



▲少し苦戦する場面もありましたが、仲間と声をかけあいながら楽しく勉強！



地域課題に加美農業高校生の若い力を！

この日、生徒達は「野生動物問題と対策」と題して、町鳥獣被害対策アドバイザーの鈴木氏から野生動物の生態や、農業被害の実態を動画で見ると、被害対策は地域ぐるみで取り組む必要があるといった内容の講演や実際に獣害対策用具を使い学習をしました。

農業高校は
獣害対策も
必須スキル！

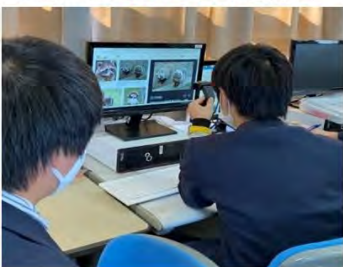
3 鳥獣被害対策の取組み

地域連携

- ・被害状況を調べるため、地域住民に対し、アンケート調査を行う。
- ・IoT機器の製作を行う。
- ・箱わなの製作や協議会の箱わなの修理を行う。
- ・柵の維持管理を行う。

能力測定

画像をランダムで検出させ
完成したAIの正答率を算出



	正答率
イノシシ	65%
クマ	90%
タヌキ	95%
イタチ	70%
ハクビシン	70%
キツネ	75%



IOT機器による錯誤捕獲対策



校内に設置した柵の維持管理

箱わな製作



地域連携

地域住民と環境整備の活動を行う。
今後、さらに活動を広げていく予定！

